

第61号

発行日 平成27年3月1日
発行 星が丘地区社会福祉協議会
相模原市中央区星が丘3-1-38
星が丘公民館内
TEL042-755-9955
編集 広報紙編集委員会
館区内人口 17,329 (男 8,715人 女 8,614人)
世帯数 7,393 (平成27年2月1日現在)

まごころ

座談会

地区社協設立(昭和59年)の頃

星が丘地区社会福祉協議会が設立30周年を迎え、設立当時に活躍された皆様をお迎えし、当時の思い出、楽しかったこと・苦労話等を平成26年12月22日横山2丁目自治会館でお聞きしました。



北島和子 司会 高橋菊江 小林清武 竹田幹夫

★出席者紹介★

竹田 幹夫 《司会》

昭和62年～現在 (自治会・地子連)
小林 清武

昭和59年～63年 (民生委員)
北島 和子

昭和60年～63年 (母子・父子福祉)
平成元年～14年 (やっきの会)
高橋 菊江

昭和59年～61年 (健康づくり普及員)
平成2年～18年 (保護司)

いつ頃から社協に関わりましたか？

司会



が始まった頃のことを伺おうと思ってお集まり頂きました。私は昭和62年から社協に関わってきたんですが、皆さんはいつ頃からですか？

小林清武 私が民生委員に委嘱されたのは昭和55年ですが、その後自治会長もやっています、民生委員から入ったのかどうか曖昧なんです。でも地区社協が発足したときから関わっていました。

北島和子 昭和59年に星が丘地区社協が設立されていますが、その二年ほど前、当時の公民館長・矢沢さん、民生委員の三沢さんから、この地区にもボランティア団体を作りたいという話が出され、私を含め数名の女性もその話し合いに参加し『ゆずりは』というグループを立ち上げました。社協が出来てからはその中で活動しました。

高橋菊江 私は、設立当時健康づくり普及員だったんですが、社協へ一人出て欲しいということで私が入りました。三年やらせて頂きました。そしたら今度は保護司会を頼まれたんです。それで両方はできないからと健康づくり普及員をやめ、同時に社協もやめさせて頂きました。その三年後、今度は保護司会から社協にと言われまして、それから十七年間、合計二〇年間ずっと社協に席を置きました。

昔は民生委員中心の社協でした

北島 当時の社協が一番力を入れていたのがバザーだったと思います。それから広報紙の発行ですね。地域の人たちに、社協ってどんな活動をしているのか、社協がどうあるべきかなどの思いを伝えていくということでした。当時は今ほど自治会が関わっていません。思っています。

小林 自治会の関わりはうすかったですね。

北島 特にバザーなどは民生委員さんとボランティア団体が軸になっていました。バザーの提供品なども各地区の民生委員さんを通してお願いしていました。

小林 大変だったですね。あと寄付金集めね。日赤とかの募金に回る

のが嫌でした。精神的にも負担が大きかったし。

北島 バザーの売上金の配分、あれも大変でした。高齢者へのお祝いの品には、中身が蕎麦殻でなくプラスチックパイプの入った健康枕と呼ばれるものもありましたね。一つ五千円ほどでした。また交通事故で親を亡くされた子ども達への慰問金の配布などにも使われました。

『まごころ』というタイトルは？



まごころ創刊号

北島 それから広報紙の編集も大変でした。

『まごころ』と決めるまでには何回も集まりました。



高橋 『まごころ』というタイトルのことで、委員全員が無記名でタイトル名を出して、その中から皆さんの意見の多かったもので決めたんです。このタイトルは私が出しました。無記名でしたから誰も知らなかったのです。

司会 私も前に「どうして『まごころ』というタイトルになったの」って聞いたことがあるんですけど、そうしたら、「よく分からないけど、三沢さんがこれだといって言ったから決まった」とか聞きました。

高橋 三沢さんがずいぶん押して下さったのは覚えてます。そんな訳で私は『まごころ』の創刊号は大切に持っています。自分の分身か子どもみたいに思っています。

司会 創刊号のお面の写真、どんなの写真ですか？

いつまでも住み慣れたところで暮らしたい。
在宅介護ひとすじで「千代田」で17年やってきました。

■千代田デイサービスセンター
042-751-0672



「親切な職員と美味しい食事」が合言葉。365日営業しています。

■ヘルパーステーション千代田
042-704-0261

70名のホームヘルパーが訪問活動をしています。介護保険法、総合支援法に対応しています。

いつでもヘルパーさん募集中！



社会福祉法人 悠朋会
相模原市中央区千代田2-4-1
www.yuhokai-kaigo.com

■千代田介護支援センター
042-704-0281

5名のケアマネージャーが介護の相談、介護プランの作成にあたっています。

■千代田相談支援センター
042-707-1434

障害のある方の介護サービス等の利用計画を作成します。



地域のイベントに「うどん屋さん」の出店をしています。売上金は全て震災被災地に送り続けています。(写真は今年の星が丘フェスティバル)

北畠 このお面の写真、節分のころの発行だから、表にはそれにちなんだ写真を載せようということになり、確か武川さんの提供されたものを使いました。



餅をついてバザーで売っていた

司会 他にも思い出はたくさんあるんではないですか。

高橋 お餅をつくのが大変でしたね。千代田6丁目の人は小川七郎さんの家によくお手伝いに行きました。

司会 バザーと公民館まつりの模擬店の時に、小川さんの家に行って餅をつき、あんころ餅にして売りましたね。

編集委員 餅はまさか臼でついたんじゃないでしょ。

高橋 臼と杵でつくんですよ。

司会 最初は機械がこねてくれるんです。最後まで機械がやればいいものを。

高橋 そう、仕上げは臼と杵なんです。

司会 しかも薪で炊いたんです。米を洗うのも大変でしたね。



北畠 五十キロぐらいって言うってましたね。何年かは続けましたが、大変手間がかかるのでこれに変わるものとしてお赤飯が定着しました。

司会 そして小川さんが自治連会長をやめてから、薪もガスにしようって言ってガスになったんです。しかも野中保さんが使いやすいガスの道具を作ってくれて助かりました。

北畠 野中さんね。あれだけ協力してくれた人はいないですよ。今は薪で炊いて餅つきなど、不平が出て出来ないでしょうね。



小林 やろうと思っても住まいの環境が変わって、場所の提供もできない。時代が変わったということだと思います。

子育てサロンのこと

高橋 野中敬一さんも熱心な方でした。今はこの地区にも子育てサロンがあります。そのサロンの下地を全部野中さんがお作りになったんです。市の青少年相談員協議会に各地区から二人委員が出ています。星が丘からは私も出ていました。その中の情報で、よその地域には子育てサロンがあるが、星が丘と違う一つの地域だけなかったんです。そして野中さんが、「よその地域の子育てサロンの実情を聞かせてよ」って、私の家に見えたんなんです。よ



そはこうです。よって話して、よそのサロンに女性の民生委員さんと見学に行き、その後色々相談してできたんです。だからあの方も大きなものを残されたと思います。

社協のお金の使いみち

司会 今は当時と比べると色々変わってきましたよね。餅つきもありませんし、薪からガスになりましたし、バザーも六十万円が二十万円弱になってる。当時小川会長に「こんなにお金を貯めてどうするつもりなんですか。土地でも買うんですか」って聞いたんです。そしたら小川さん、「金は使えなくなる。貯めてから使いみちは考えるんだ。貯めとけばいいんだ」って聞いていましたよ。

北畠 当時は景気も良い時代でバザーの収益金も多かったんです。その有効な使い方として、地域で福祉活

動を行っている団体への助成金なども出しました。

司会 自治会ももらってました。子どもの広場の運営のために使ってくれということ。それで「広場のない自治会はどうするの」と聞いたから、「子どものために使ってくれればいいんだ」って全自治会がもらってました。

これからの社協

司会 これからの社協はこうあって欲しい、というようなことはありますか。

北畠 今では当時よりはるかに高齢の方が増えてきています。公民館で事業を展開しても、参加できる人は健康な人だけに限られがちです。足腰も弱くなり参加したくても出て来られない人をどうするか、この方々への対応も考えたいですね。

また高齢者の問題だけでなく、子ども達が明るく伸び伸びと育つ地域づくりを社協の立場から考えていければと思います。

高橋 夫が三年ほど前、両耳が聞こえなくなりました。私も八十三歳ですが夫を看ています。だからどんなにいい事業があっても家から出られないんです。そういう人を助ける方法ってないのかな、って思います。もつと小さなことで社協が何かできないかな、って感じています。

小林 何をやるのでも、お金が欲しいですね。社協を運営していくにはお金が必要です。行政に頼るのではなく、自分たち地域がお金を持っていることが必要かなと思います。

第27回 福祉バザー

平成26年10月26日(日)、「会計2番へどうぞ」などと誘導の星が丘地区ふれあいフェスティバル会場の星小学校庭で、恒例の福祉バザーが行われました。

これまでと同様にフェスティバルの開会が告げられる前から、準備中のテント前には早々と並ぶ人が見られ、その人気ぶりがかがえました。今回は初めて衣類もバザー提供品に含めたことで、その値付けにも苦労があったようでした。いざバザーがオープンされると、待ち構えていた大勢の方々の長い列がテントの中へ吸い込まれていきます。

「はい、ここが列の最後尾です」



電気設備・設計・施工

株式会社 井村電気商会

〒252-0238
神奈川県相模原市中央区星が丘1丁目1番20号
TEL. (042) 752-0267
FAX. (042) 753-8484



株式会社松尾商行



電気設備・設計・施工

(株)成川電興

代表取締役 成川 紀生

相模原市中央区横山3-30-15

TEL 042(755)2556
FAX 042(755)6127

今年の敬老事業も盛況でした

今年の敬老事業は、敬老金品のプレゼント、星が丘地域3会場での敬老会及び高齢者顕彰の3本柱で実施しました。

なお、福祉基金の一部を今回の敬老事業に使わせていただきました。

敬老金品のプレゼント

◆88歳と100歳の方にお祝い金、77歳以上の1571名の方にお菓子を民生委員から配りました。

敬老会の実施

◆9月15日星が丘公民館にて「和歌声会」の皆さんに歌と踊りを披露していただきました。参加者67名の中から、飛び入り参加したいという声もでる程盛り上がりしました。

◆10月12日は、午前に千代田7丁目自治会館、午後は千代田2丁目にあるデイサービス「やよい」を会場に青森県南部会の方に津軽三味線と民謡を演じていただき、続いて「立川獅子丸」の落語を74名の参加者が楽しみました。

高齢者顕彰

◆10月26日、星が丘地区ふれあいフェスティバルの会場で、「地域貢献活動が顕著であった高齢者に対し顕彰や感謝の意を表する」表彰を行いました。

受賞者は次の10名の方です。

(順不同・敬称略)

川崎 洋子 千代田4丁目
小川 嘉一 星が丘3丁目
小泉 博 星が丘1丁目
高橋 芳一 千代田2丁目
原 文子 星が丘1丁目
佐々木和夫 横山6丁目
横瀬フミ子 横山5丁目
鳥越 つる 星が丘2丁目
奥山 譲 星が丘2丁目
矢部 英子 横山2丁目

12/7 福祉学習会

今年も福祉学習会が公民館で行われました。本年度は「認知症サポーター養成講座」と「中高年齢者の動物飼育のプラスとマイナス」という講座が行われました。

「認知症サポーター養成講座」

星が丘高齢者支援センターの方を講師に招き、寸劇方式でわかりやすく認知症の方への接し方などを教わりました。まず大事なのは「三つのない」

三つの「ない」の基本姿勢

- ① 驚かせない
- ② 急がせない
- ③ 自尊心を傷つけない



つつい忙しいと自分本位になってしまい、認知症の方への配慮がなくなってしまうのだと気づかされました。認知症になってしまった方も

みんなのつどい



昨年11月22日(土)に地域の子どもからお年寄りまでの交流の場として「みんなのつどい」が開催され、延べ250名の方の参加がありました。公民館会場では、人気の松ぼっくりのミニツリー作りに、今年初めてとなる帽子型マグネット作り、機織り体験、フリーマーケットが行われ、星小校庭では、今年もグラウンドゴルフが行われました。

今年も高齢者の他に毎年松ぼっくりに色付けしていただいている「陽だまり作業所(福祉施設)」にもミニツリーをプレゼントし喜んでいただきました。マグネット作りでは、布を縫う際

もちろん大変ですが、そのご家族もご苦労があると思います、その周りの方々が接し方を少し考える事が出来る認知症の進み方を緩やかにできるのだと知ることが出来ました。最後に認知症サポーター認定のオレンジリングを頂き認知症サポーターの仲間入りをしました。

「中高年齢者の動物飼育のプラスとマイナス」

獣医師の後藤克正氏を講師に招き、お年寄りや動物の関わりについて講義頂きました。

プラス面

●高齢者や認知症の方が動物に触れてもらうと、笑顔になったり笑ったり、会話がはずみ、生活の質が向上する例がある。

●子どもの場合、世話などを通じて命の大切さや、責任を持つという意識を勉強させるいい機会になる。

マイナス面

◎自分がしっかりしている時はいいが、弱くなった時世話が大変になる
◎動物も長生きになってきたので、その為に出てくる病気があり、認知症になる犬もいる。

◎可愛いのが、甘やかして育ててしまうと、自分が年で世話できなくなった場合、躰がされていなくて引き取り手を探すのが大変になる。

この他にも動物に関する愛情溢れるお話を沢山して頂きました。

この事を踏まえて十年後、十五年後の家族構成を考えて飼うようにする事がとても大事になってくると思えました。みなさんも可愛いペットを飼う時は、少し考えてみてはいかがでしょうか。



なお、恒例のペットボトルキャップ・プルタブ回収には星が丘キッズの子ども達にもお手伝いをしてもらい、回収にご協力していただいた方にポップコーンをプレゼントいたしました。



帽子型マグネット作り



機織り体験



賑わうフリーマーケット



星が丘キッズも
お手伝い

総合福祉のたんぽぽグループ

「人とのふれあい」「手厚い介護」「安心感」をテーマにした総合福祉グループです。
居宅介護支援事業所たんぽぽ
訪問介護ステーションたんぽぽ
デイサービスセンターたんぽぽ
グループホームたんぽぽ
～介護に関する相談を受け付けています～
〒252-0237 相模原市中央区千代田7-13-13
☎042-786-2343

ちよだ保育園分園 ムーミン

あかるく 広々とした
乳児専用ルームです！
家庭的なあたたかい保育が特徴です！
遊びに来てくださいね！

住所 相模原市中央区千代田4-2-15
電話 042-810-7711
★保育園見学★
電話連絡の上、ご来園ください。



グローバルパッケージ



株式会社 0-グローバル・ミヤモト
http://www.rotarybagmiyamoto.co.jp E-mail rbm@rotarybagmiyamoto.co.jp
本社:相模原市中央区千代田7-1-10
TEL. 042-756-6629

シリーズ福祉施設紹介

ピッコリーナ

県央福祉会ピッコリーナは、生活介護事業の支給決定を受けた障がいのある方を対象に、作業や自主製品の製作販売などの仕事を通し社会との係わりを深めたり、余暇活動や創作的な活動などが楽しめる豊かで充実した生活ができることを支援しています。

ピッコリーナは18年ほど市内上溝で活動をしていましたが、平成26年3月に星が丘へ移転し、5月には、カフェ・ピッコリーナをオープンしました。

カフェでは窯焼きピザをメインにシフォンケーキ、ハーブティー、こだわりのコーヒーなどを出しています。おかげさまで、少しずつ地域の皆様にも知っていただけるようになりましたが、もともとと沢山の方にカフェをご利用していただきたいです。上溝時代には「ハーブポット」という雑貨とハーブの店を開いていたこともあり、星が丘で新しくオープンしたカフェの仕事に利用者さんも自信を持って笑顔



社会福祉法人 県央福祉会 ピッコリーナ
〒252-0238 相模原市中央区星が丘4丁目16-16-1
TEL 042-786-6086
FAX 042-752-1563

で皆様のご来店お待ちしております。
カフェのほかには、ハーブティーのブレンドや自主製品づくり(あじさい会館のバオバブにて販売しています)、マンションの清掃活動、下請けの作業など沢山の仕事をしています。
移転してきれいな建物になったので、皆張り切って仕事をしています。この土地で末永く活動していきたいので、今後とも宜しくお願いいたします。

きて!みて!子育てサロン



星が丘子育てサロン(星が丘公民館)

毎月、第2水曜日(※)に開催される星が丘子育てサロンは、昨年9月に100回記念を迎えました。毎回、二葉園の先生方が来てくださり、手遊びや、エプロンのポケットから果物や動物が出てくるエプロンシアターなどで楽しんだ後、ビニール製のお馬さんや楽器など沢山のおもちゃを出して下さるので、みんなおお喜びで遊びます。

12月はクリスマスということで、大人も子どももキラキラのグリーンやピンクのトンがり帽子をかぶって遊びました。途中でお母さんはひと時子どもと離れて紅茶を飲む機会を持ちました。帰りには、かわいいビニール袋に入ったふわふわせんべいがプレゼントされました。



12月のサロン風景

※変更休みもありますので、地域情報紙をご覧ください



横山いこいの広場が開設します

星が丘地区、千代田地区のいこいの広場に続き、横山地区にいこいの広場を開設します。

特に当広場においては、健康運動実践指導者によるバンドエクササイズを行います。バンドエクササイズとは、太めのゴムバンドを使ったストレッチで、筋力アップや運動不足解消につながります。また、腹式呼吸法も取り入れたエクササイズでリラクゼーション効果もあります。なお、エクササイズの参加は自由です。その他、趣味のコーナーや飲み物を用意しております。気軽に集える広場ですので、老若男女どなたでもご参加をお待ちしております。

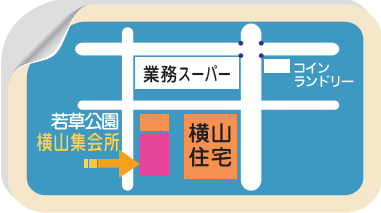
日時 平成27年3月11日(水)
午前10時から12時まで

場所 横山集会所(横山六丁目)
毎月第2水曜日開催予定です。
なお、運営サポーターを募集しております。ご連絡をお待ちしております。

星が丘地区社協事務局
(755) 9955 榎村・楠野



健康運動実践指導者によるバンドエクササイズ



★星が丘地区いこいの広場へご寄付をいただきました。ありがとうございます。
囲碁一式：千代田2丁目 佐藤ケイ子様

募金協力ありがとうございました

A+B	総合計	3,202,195 円
日赤	社費	964,240 円
日赤	社協賛助会費合計	929,100 円
	特別	365,000 円
	一般	564,100 円
共同募金合計		1,308,855 円
赤い羽根		944,855 円
法人		255,000 円
戸別		653,300 円
街頭		9,983 円
校内		16,261 円
その他		10,311 円
年末たすけあい		364,000 円

ペットボトルキャップ・フタ回収

平成19年～累計
キャップ 2,299.5kg
フタ 332kg
ご協力有難うございます。

★お知らせ★
平成27年4月より、回収はイベント時のみになります。公民館窓口ではお受けできません。

お知らせ

●ホームページが4月から開設します
●いきいきパーティー開催
3月14日 午前10時
星が丘公民館にて

編集後記

4月に不安な気持ちいっぱい「まごころ編集委員」となり早一年が過ぎようとしています。その不安な気持ちも、優しく接して頂いた社協の方々のお陰ですぐになくなりました。私は子育てに追われる日々を過ごし周りがあまり見えていませんでしたので、福祉のことなどじっくり考えるいい機会を頂いたと思います。私の周りにもこういった会があることを広めて行けたらと思っています。一年間ありがとうございました。(中沢)

ご葬儀のことなら 安心納得価格保証



〒252-0238 相模原市中央区星が丘3-15-4 スターヒルズMTビル3階
TEL: 042-786-0301 FAX: 042-786-0302
ホームページ: www.yoisougi.com

三井メモリアル株式会社

心のこもった思いやりの「つながる介護」で、満足度の高い一日をお過ごしいただけます!

快適な設備と、信頼できるスタッフで、上質な介護サービスを提供します。



ホームケアセンター笑福
〒252-0237 なやかグループ
相模原市中央区千代田5-9-2
TEL. 042-753-3578
FAX. 042-851-3598
<http://www.ymmd-hcc.jp/location/笑福/>

特定非営利活動法人ほっと ほっとさーくるありす工房

ありす工房は、あなたの街の小さな事業所です。養護学校を卒業した人たちが、ときには泣いたり悩んだりすることもあります「元気に・明るく・楽しく」機織り作業やレクリエーションをしています。

少しずつ成長してきた「ありす工房」は、これからも皆さまに助けをいただきながら、また一歩一歩進んでいきたいと考えています。

相模原市中央区横山2-7-8
Tel 042-776-6548